

3 米國実業家極東視察問題

昭和9年11月24日 在ニュー・ヨーク沢田総領事より
広田外務大臣宛(電報)

日米通商協議会議長より全米貿易評議会の日
本・中国・フィリピンへの経済調査使節派遣
計画に対する我が方意向照会について

ニュー・ヨーク 11月24日後発
本 省 11月25日前着

第一六四號

十一月二十二日日米通商協議會例会ニ於テ議長「トマス」ハ過日開催セラレタル第十三回「ナシヨナル、フオーレン、トレード、コンベンシヨン」ノ最終決議ニ言及シ其ノ中經濟使節派遣ノコト太平洋諸國トノ貿易増進ノコトト別々ニ規定シ居ルモ此ノ兩者ハ關聯シ居リ實ハ右ハ全米貿易評議會ヨリ英國産業調査團ノ例ニ倣ヒ日本、支那、比律賓等ニ經濟調査使節ヲ派遣シ度キ内意ヲ表明シ居ルモノニシテ自分ハ來月初華府ニ出張シ「フーデン、ベック」始メ關係省側ノ之ニ對スル内意ヲ聴ク積リナル處日本側委員ハ如何

ニ考フルヤト尋ネタルニ付本官ハ滿洲國ニ今尙米國産業家ノ活動スヘキ分野アリヤニ付最近當國種々ノ方面ヨリ尋ネラルル處ナルカ英國視察團ヲ始メ佛國獨逸等ノ調査團モ渡滿シタルヤノ聞込モアリ果シテ現在米國産業家ニ殘サレタル分野アリヤハ疑問アルヘキモ假令現在之無シトスルモ將來ノ爲ノ調査トモ爲ルヘク免ニ角此ノ際日本ニ對スル實業團派遣ノ如キハ兩國友好關係増進上結構ナル企ナリト思考スル旨ヲ述ヘタルニ「トマス」ハ之ニ付テハ經費及人選ノ問題等アルモ國務省側ノ内意次第ニテハ本大會ノ臨時會ヲ開キ本計畫實現方協議シ度キ旨ヲ述ヘタリ

米へ轉電セリ

178 昭和9年11月24日 在ニュー・ヨーク沢田総領事より
広田外務大臣宛(電報)

全米貿易評議會決議中の経済使節派遣に関する箇所について

別電 十一月二十四日発在ニュー・ヨーク沢田総領事より
事より広田外務大臣宛第一六六号
右決議中の当該箇所

Trade with Pacific Area Convention desires to record its concern over present conditions affecting our trade in Pacific Area in such countries as Philippines Japan China Australia and Newzealand.

As future of our world trade is indissolubly bound up with maintenance of a full measure of reciprocal trade in that area no obstacles or discriminations should be imposed by legislation or embargoes discriminatory duties or other trade barriers which would affect natural flow of reciprocal trade. While this statement is to a large extent equally applicable to other areas Convention is impressed with opportunities which lie in our Pacific possessions and neighboring countries and peculiar responsibility of American people in protecting and maintaining our mutual trade.

179 昭和9年12月12日 在ニュー・ヨーク沢田総領事より
広田外務大臣宛(電報)

新地ハンジン協定による中國への使節派遣計

四 日米外交関係

米ノ暗殺ヤリ
通
及太平洋諸島トノ貿易促進ニ關スル部分別電第一六六號ノ
全米貿易調査會大會最終決議(全文郵送ス)中經濟使節派遣
往電第一六四號ニ關シ
第一六五號
本 省 11月25日前着
ニュー・ヨーク 11月24日後発
本 省 11月25日前着
No.166
Economic missions practice of leading foreign countries in sending men selected for their knowledge of foreign trade requirements export and import to visit and survey trade and investment possibilities in other countries should be followed by our own
(Government of Government.)

画につき我が方憂慮表明について

ニュー・ヨーク 12月12日後発
本 省 12月13日後着

第一七五號

當地亞細亞協會ニ於テ經濟使節團ヲ支那ニ派遣スルコトトナリ既ニ人選問題ニ迄進ミタル旨聞込ミタルヲ以テ十一日「トマス」ヲ往訪シ右ニ付何等承知スル所アリヤヲ尋ネタルニ「ト」ハ話ノ起リハ元駐伊大使「チャイルド」ヨリ英國ノ例ニ倣ヒ團匪事件賠償金ノ如キモノヲ利用シ成ルヘク「エデューケーシヨナル、ミツシヨシ」ヲ送ルコト必要ナル旨ノ提言アリ亞細亞協會ニ於テ審議ノ結果純粹ナル教育上ノ使節ヨリモ經濟使節ヲ送リテ米支取引ノ促進ヲ計ルコト時宜ニ適スヘシトノ結論ニ達シタル趣ニテ米支通商協議會側ニテモ相談アリタルカ其方法又ハ人選等ニ付キ何等話纏リ居ル次第ニ非サル旨ヲ述ヘタルヲ以テ本官ハ第三國カ善意ヲ以テスル支那ニ於ケル經濟上ノ活動ハ支那ノ利益ニシテ日本トシテモ歓迎スルモノナルコト但シ日本ハ其ノ地理的ノ地位上東亞ノ平和ニ付キ最モ緊切ナル關心ヲ有スルカ故ニ東亞ノ秩序維持ニ反スル行動ヲ取ルモノニ對シテハ如

四 日米外交關係

ノヲシテ先ツ日本ニ於テ財界實業界ノ有力者ト懇談ヲ遂ケタル後其ノ旅程ノ一部分トシテ支那ニモ立寄ラシムルコトトセハ少クトモ形ノ上ニ於テ本官ノ憂ウル點ヲ幾分緩和シ得ヘシト認ムル旨ヲ述ヘタルニ「ト」ハ日本側ニ不快若クハ疑惑ヲ供スルコトハ素ヨリ自分等ノ望マサル處ナルヲ以テ御注意ノ點ハ協會側ヲシテ充分考慮ニ入レシメ今後ノ發展ニ付テハ隨時御知ラセスル旨答ヘタリ
尙東亞視察團ニ付國務省側ノ意嚮如何ナリシヤヲ尋ネタルニ「ト」ハ過日華府ニ赴キタル際「ホーンベック」多忙ノ爲會見セサリシモ電話ニテ概略ヲ話シタルニ對シ「ホ」ハ元來スル「ミツシヨシ」ニ付テハ政府側ノモノト半官半民ノモノト(例ヘハ費用等ニ付)純然タル民間ノモノト三者ヲ考ヘ得ヘキ處政府トシテハ今如何ナル形ニ於テモ之ニ參加シ得サルモ民間ニ於テ派遣スル場合ニ於テハ出先米國官憲ヲシテ出來得ル丈ケ目的達成ノ爲援助方訓令シ差支ヘ無キ旨ヲ答ヘタルニ依リ自分ハ夫レ丈ケノ保障ヲ得レバ充分ナリトテ歸リタル次第ニテ先ツ視察團派遣ノ費用釀出ノ爲寄々相談シツツアル旨ヲ述ヘタリ
米ニ暗送セリ

何ナル形ニ於テ爲サルルヲ問ハス之ヲ默視スルコト能ハサルコトハ豫テ我方ニ於テ宣明シ居ル所ナルコト御承知ノ通ニシテ日本カ國際聯盟ノ政治的ノ色彩アル對支經濟援助或ハ不純ナル動機ヲ藏スル「モネー」ノ活動等ニ對シ反對ノ態度ヲ持シ來リタル次第ナリ從ツテ米國ノ對支使節派遣ニ付テモ此ノ點慎重ニ考慮セラレンコト望マシキ旨述ヘタルニ「ト」ハ亞細亞協會ノ企圖スル所ハ純然タル取引本位ノモノニシテ政治的ノ意味無ク又政府筋トノ關係モ無シ英佛等カ支那ニ於ケル鐵道建設或ハ鐵道材料供給上相當ナル仕事ヲ爲シツツアルニ鑑ミ米國カ純粹ナル「ビジネス」ヲ爲サント企ツルニ對シ日本カ反對セラルヘキ理由無キ様思考スル旨ヲ述ヘタリ依テ本官ハ第三者ハ善意ナル場合ニ於テモ支那政客ハ之ヲ國內政争ノ具ニ供シ或ハ反日ノ爲ノ外國ノ援助ナルガ如ク言觸スコト其ノ慣用手段ナルヲ以テ此ノ點注意ヲ要スル次第ナルヲ述ヘタル處「ト」ハ本官ニ於テ何等具體的提案アリヤト訊ネタルヲ以テ貴方ノ計畫次第ニテハ色々註文モ有ルヘキモ差當リノ思付トシテハ對支使節ヲ亞細亞協會派遣ノ獨立ノモノトセス先般御話有リタル全米貿易評議會主催ノ東亞視察團(往電第一六四號)ノ如キモ

本電往電第一六四號ト共ニ英、佛、壽府ニ暗送セリ

180 昭和9年12月18日 在滿州國菱刈大使、在中國有吉公使、在中國若杉公使館一等書記官他宛

全米貿易評議會の極東經濟使節派遣計画およびニュー・ヨークアジア協會の中國經濟使節派遣計画について

亞一機密合第一七六九號
昭和九年十二月十八日

外務大臣 廣田 弘毅

在滿洲國特命全權大使 菱刈 隆殿

在中國特命全權公使 有吉 明殿

在北平公使館一等書記官 若杉 要殿

在南京總領事 須磨 彌吉郎殿

日米通商協議會ノ極東經濟調査使節派遣計畫ト紐

育亞細亞協會ノ對支經濟使節派遣計畫ニ關スル件

本件ニ關シ別紙御參考ノ爲送付スルニ付差當リ貴使官限りノ御含ニ止メ置カレ度シ

本信宛先 支、滿、北平、南京

(一)米國ニ於ケル全米貿易評議會(National Foreign Trade Council)ノ一「セクション」トシテ本年一月紐育ニ於テ同地日米兩國人實業家ヲ以テ日米通商協議會(Japanese American Trade Council)ナルモノ組織セラレ全米貿易評議會ノ「プレジデント」Eugene P. Thomasヲ以テ之カ「チエアマン」トシ日米貿易ノ増進ヲ計ルコトナリタル處十月末ノ全米貿易評議會本年度年次大會(13th National Foreign Trade Convention)ノ最終決議中ニ經濟使節ノ派遣及太平洋諸國ノ貿易増進ノ二項目アリタル關係モアリ十一月二十二日ノ日米通商協議會例會ニ於テ議長「トマス」ヨリ「コンヴェンション」最終決議ノ右兩項目ハ相關聯スルモノニシテ實ハ英國産業調査團ノ例ニ倣ヒ全米貿易評議會ヨリ日本、支那、比律賓等ニ使節ヲ派遣シ度キ内意ヲ表明シ居ルモノニシテ近ク華府ニ出張シ國務省側等ノ之ニ對スル内意ヲ聽ク積リナル處日本側委員ハ如何ニ考フルヤト尋ネタルヲ以テ澤田總領事ハ今尙滿洲國ニ米國産業家ノ活動スヘキ分野アリヤニ付最近當國種々ノ方面ヨリ尋ネラルル處ナルカ英國視察團ヲ

始メ佛國獨逸等ノ調査團モ渡滿シタルヤノ聞込モアリ果シテ現在米國産業家ニ殘サレタル分野アリヤハ疑問アルヘキモ假令現在無シトスルモ將來ノ爲ノ調査トモ爲ルヘク此ノ際兎ニ角日本ヘノ實業團派遣ノ如キハ兩國友好關係増進上結構ナル企ナリト思考スル旨ヲ述ヘタルニ對シ「トマス」ハ之ニ付テハ經費及人選等ノ問題アルモ國務省側ノ内意次第ニ依ツテハ本大會ノ臨時會ヲ開キ本計畫實現方協議シ度シト述ヘタル趣ナル處其ノ後「トマス」ノ内報ニ依レハ「ト」ハ最近華府ニ赴キタル際「ホーンベック」多忙ノ爲會見セサリシモ電話ニテ概略ヲ話シタルニ「ホ」ハ元來斯ル「ミツシオン」ニ付テハ政府側ノモノト半官半民ノモノト(例ヘハ費用等ニ付)純然タル民間ノモノトノ三者ヲ考ヘ得ヘキ處政府トシテハ今日如何ナル形ニ於テモ之ニ參加シ得サルモ民間ニ於テ派遣スル場合ニ於テハ出先米國官憲ヲシテ出來得ル丈ケ其ノ目的達成ノ爲援助方訓令シ差支ヘ無キ旨ヲ答ヘタル趣ニシテ「ト」トシテハ夫レ丈ケノ保障ヲ得レバ充分ナリトテ考ヘ先ツ視察團派遣ノ費用釀出ニ關シ寄々相談シツツアル由

(二)然ルニ一方紐育ノ亞細亞協會ニ於テハ支那ニ經濟使節團ヲ派遣スルコトトナリテ既ニ人選問題ニ迄進ミタル趣聞込ミタルヲ以テ澤田總領事ハ十二月十一日「トマス」ニ就キ確メタル處ニ依レハ話ノ起リハ元駐伊大使「チャイルド」ヨリ英國ノ例ニ倣ヒ團匪事件賠償金ノ如キモノヲ利用シ「エデュケーション」ナル「ミツシオン」ノ如キモノヲ送ルコト必要ナル旨ノ提言アリタルヲ似テ亞細亞協會ニ於テ之ガ審議ノ結果純然タル教育上ノ使節ヨリモ經濟使節ヲ送リテ米支取引ノ促進ヲ計ルコト時宜ニ適スヘシトノ結論ニ達シ米支通商協議會側ニテモ相談シタルモノナルカ其方法又ハ人選等ニ付キ未タ何等話纏リ居ル次第ニ非サル趣ナリシ由右ニ付澤田總領事ハ「トマス」ニ對シ第三國カ善意ヲ以テスル支那ニ於ケル經濟上ノ活動ハ支那ノ利益ニシテ日本トシテモ歡迎スルモノナルカ日本ハ其ノ地理的ノ地位上東亞ノ平和ニ付キ最も緊切ナル關心ヲ有スルカ故ニ東亞ノ秩序維持ニ反スル行動ヲ取ルモノニ對シテハ如何ナル形式ヲ以テセラルルトモ之ヲ默視スルコト能ハサルハ豫テ我方ニ於テ宣明シ居ル所ナルコトハ既ニ御承知ノ通ニシテ日本ハ國際聯盟ノ政治的ノ色

彩アル對支經濟援助或ハ不純ナル動機ヲ藏スル「モネー」ノ活動等ニ對シ反對ノ態度ヲ持シ來リタル次第ナリ從ツテ米國ノ對支使節派遣ニ付テモ此ノ點ヲ慎重ニ考慮セラレンコトヲ希望スル旨述ヘ尙「トマス」ヨリ亞細亞協會ノ本計畫ハ純然タル取引本位ノモノニシテ政治的ノ意味無ク又政府筋トノ關係モ無シ英佛等カ支那ニ於テ鐵道建設或ハ鐵道材料供給上相當ナル仕事ヲ爲シツツアルニ鑑ミ米國カ純然タル「ビジネス」ヲ爲サント企ツルニ對シ日本カ反對セラルヘキ理由無キ様思考スル旨ヲ述ヘタルモ更ニ澤田總領事ニ於テ第三者ハ善意ナル場合ニ於テモ支那政客ハ之ヲ國內政争ノ具ニ供シ或ハ反日ノ爲ノ外國ノ援助ナルカ如ク言觸スコト其ノ慣用手段ナルヲ以テ此ノ點注意ヲ要スル次第ナリト説明シ思ヒ付トシテ更ニ獨立ニ亞細亞協會派遣ノ對支使節トセス先般來御話ノ全米貿易評議會主催ノ東亞視察團ノ如キモノトシテ先ツ日本ニ於テ財界實業界ノ有力者ト懇談ヲ遂ケタル後其ノ旅程ノ一部分トシテ支那ニモ立寄ラシムルコトトセハ少クトモ形ノ上ニ於テ本官ノ憂ウル點ヲ幾分緩和シ得ヘシト認ムル旨ヲ述ヘ置キタル趣ニシテ「ト」ハ素ヨリ自分等ハ

日本側ニ疑惑若クハ不快ヲ與フルコトハ望マサルヲ以テ御注意ノ點ハ協會側ヲシテ充分考慮ニ入レシムルノミナラス今後ノ發展ニ付テハ隨時御知ラセスル旨答ヘタル由

181 昭和9年12月21日
在ニュー・ヨーク沢田総領事より
広田外務大臣宛(電報)

日米通商協議會議長より全米貿易評議會經濟使節団派遣計画の概要内示とこれに対する我が方意向照会について

ニュー・ヨーク 12月21日後発
本省 12月22日前着

第一八一號

往電第一六四號ニ關シ

二十日ノ例會ニ於テ「トマス」ハ極東視察團ニ對スル國務省側ノ態度トシテ往電第一七五號末尾ノ次第ヲ披瀝シタル後該視察團ハ大体四月中ニ出發シ六月下旬巴里ニ於ケル國際商業會議所大會ニ合フ様歸國スルコトトセシメ度極東滞在ノ期間短キ關係上日本及支那ニ對シ各々別箇ノ團體ヲ派遣スルカ或ハ單一ノ團體トスルモ之ニ日本及支那ノ二

述ヘタリ右ノ通我方注文ハ日本側委員各自ノ Suggestion トシテ申出テ得ルコトトナリ居ルヲ以テ經濟聯盟等ニ御問合セノ上其ノ希望モ有ラハ至急御回電アリタシ
米、在米各領事へ暗送セリ

182 昭和9年12月28日
広田外務大臣より
在ニュー・ヨーク沢田総領事宛(電報)

日本經濟連盟の意向として經濟使節団派遣の主要眼を日本視察とするべく米國側へ申入れ方訓令

本省 12月28日後9時10分發

第一〇七號

貴電第一八一號ニ關シ

本件視察團ハ累次御報告ノ經緯ヨリ判斷スルニ支那ヲ主タル目標トナシ今時ニ日本視察ヲモ兼ネ行ハントスルモノト認メラレ相當之ヲ重視スルノ要アルヘク殊ニ「ヤング」ノ如キ有力者參加スル場合ニハ右視察團ノ使命ハ一層重要性ヲ加フヘキニ付我方トシテハ之ト充分接觸ヲ保チ日本ノ經濟力ニ關シ正確ナル認識ヲ得セシムルト共ニ米國側カ將來支那ニ於テ何等カ經濟活動ヲ爲ス場合ニハ日本ヲ無視シ得

箇ノ分科會ヲ設ケテ同時ニ兩國ヲ視察セシムルコトトスルノ必要ニ迫ラレ居ル處日米協議會側ノ希望如何ヲ承知シ度キ旨ヲ述ヘタルヲ以テ本官ハ外國ノ對支經濟活動ニ對スル我方態度ヲ述フルト共ニ單一ナル團體カ先ツ日本ニ於テ極東通商ニ關スル豫備商議ヲ調ヘ其ノ基礎ノ上ニ於テ支那ヲ視察スルコト視察團ノ目的ヲ有效ニ達スル上ヨリ見ルモ肝要ナル旨ヲ述ヘ之ニ付種々ノ意見アリタルカ採決ノ結果日米協議會トシテハ全米貿易評議會主催ノ下ニ單一ナル視察團ヲシテ日本並ニ支那ヲ視察セシムルコトヲ希望スル旨決議シタリ尤「トマス」ハ費用及時日ノ關係上滿洲國及「フイリツピン」迄視察セシムヘキヤハ其ノ決定ヲ後日ニ譲リタキ旨留保セリ

尙「トマス」ハ人選ニ付「チェヤーマン」トシテ差當リ Owen D. Youngニ交渉方考ヘ居ル旨又團體トシテハ現ニ極東ニ取引ヲ爲シツアル會社等ノ代表者(棉、材木等ニ關係アル地方ノ代表者モ含ム)ヲ勸誘シ更ニ將來互惠協定交渉ノ場合ヲ豫想シ商務省ノ専門家ニ非公式ニ參加シ賞フコトモ考ヘ居ル旨ヲ披露シタル上本視察團ノ指名ノ方法及人選等ニ付當協議會委員各自ヨリモ意見申出テアリタキ旨ヲ

サル事實ヲ篤ト會得セシムルコト肝要ト思考セラル就テハ早速經濟聯盟ニモ右ノ趣旨ヲ含メテ打合セタル結果此際不取敢全米貿易評議會ニ對シ全聯盟ノ名ニ於テ右視察團ヲ歡迎スル旨ヲ表示スルト共ニ(一)一行カ日本經濟界ノ實情ヲ篤ト視察シ且ツ充分日本側ト懇談ノ機會ヲ得ル爲メ日本ニ少クトモ十日乃至二週間位滞在セラレ度キコト(二)可成一行ニ於テ滿洲國ヲモ視察セラレ度キコトヲ全聯盟ノ希望トシテ申入ル、コト、ナリタルニ付右然ルヘク先方ヘ傳ヘラレタシ
尙此種視察團ハ餘リ多人數ナル場合ニハ視察及懇談ニ不便ナルニ付可成少數(十名以内位)ノ有力者ヲ以テ組織スルヲ可トスヘク又一行中ニハ日本ニ關シ理解及同情ヲ有スルモノ數名ヲ加フルコト甚タ望マシキニ付此二點ハ貴官ノ思付トシテ「トマス」ヘ注意シ置カレ度シ
米及在米各領事ニ暗送アリタシ

183 昭和9年12月28日
広田外務大臣より
在ニュー・ヨーク沢田総領事宛(電報)

經濟使節団人選上の留意点について

本省 12月28日後9時10分発

第一〇八號

堀内局長ヨリ

往電第一〇七號ニ關シ

一行ノ顔觸如何ハ我方ノ指導上ハ勿論視察後ニ彼等ノ對日

*事項編注

昭和九年の海軍軍縮問題をめぐる日米間關係文書については既刊『日本外交文書 一九三五年ロンドン海軍會議』を併せて参照。

對支意見決定ニ就テモ重要ナル關係アルヘキコト申ス迄モ
ナキニ付日本ニ對シ事業上利害關係深キ者又ハ日本ニ關シ
充分理解ヲ有スル者少クトモ兩三名ヲ加フルコト必要ナル
ヘク若シ事情許セハ Howard E. Cole, Charles P. Perin 等
ノ參加方望マシク思ハル其邊御考慮中トハ存ルモ爲念

五 日英外交關係*

184 昭和9年1月10日 広田外務大臣より
齋藤内閣總理大臣宛

日英協調の必要を説く英國外相より我が方外
相へのメッセージについて

拜啓陳者舊臘歸任セル在本邦英國大使ハ十二月二十六日歸
任ノ挨拶旁本大臣ヲ來訪シ別紙寫ノ如キ英國外務大臣ヨリ
本大臣ニ宛テタル機密非公式書翰ヲ傳達致候ニ付譯文ヲ共
ニ御高覽ニ供シ候條御査閱相成度候尙右ニ對シテハ松平大
使ヲ通シ回答致度所存ニ候右申進旁得貴意候 敬具

昭和九年一月十日

廣田外務大臣

齋藤 内閣總理大臣殿

(別紙)

Personal and informal.

British Embassy,
TOKYO.

December 26th, 1933.

I have been charged by His Majesty's Principal
Secretary of State for Foreign Affairs to deliver to
Your Excellency, on the assumption of your high
office, this personal message of greeting. It is a matter
of especial gratification to Sir John Simon to recall
that Your Excellency is well acquainted with Great
Britain, and that you have had personal opportunity,
particularly during your period of service at the
Japanese Embassy in London, of making a first-hand
study of British character and British policy. It is also
gratifying to know that Your Excellency, on returning
to Tokyo, did not cease to be concerned with relations
between Japan and the British Empire, but was able to